

令和元年度 教育課程特例校 多治見市立笠原小学校の実践と成果

1 これまでの取組

笠原小学校は、平成14年度から平成29年度まで、5期15年に渡って『研究開発学校』の指定を受け、笠原中学校とともに「小中連携による外国語教育の在り方に関する研究実践」に取り組んできました。

その後、平成30年度からは、教育課程特例校として、第1学年から第6学年の6年間で330時間の『外国語科』を実施しています。実践的なコミュニケーション能力の育成をめざして、音声から言語を獲得するための適期とされている小学校低学年から、「聞く」「話す」活動を中心に「読む」「書く」活動を含めた外国語教育を展開してきました。

この教育活動を底支えているのは、平成14年度に立ち上げられた『笠原校区幼保小中一貫教育推進協議会』です。同協議会を中心に町を挙げての幼保小中の連携強化が図られており、外国語教育がその中核を担っています。

2 令和元年度の取組

指導教材（中学年）と教科書（高学年）に加え、児童の発達の段階に配慮して、育成すべきコミュニケーション能力の素地を段階表に取りまとめ、それらをもとに6年間の指導計画を作成しています。

また、各教科等の既習事項を取り扱う独自の手法『笠原型コンテンツ・ベイスト』も取り入れ、各教科の内容の系統性等へも十分に配慮して実践しています。

令和元年度は「生き生きとコミュニケーションを図る児童を育てる指導の工夫～笠原小開発教材と新教材“Let’s Try!”“We Can!”を活用した指導と評価のあり方～」をテーマに研究してきました。評価の在り方や学習環境の充実、小・中連携の在り方などを工夫することで、学習した英語表現を駆使して、互いの思いや考えを、正確・適切にコミュニケーションすることができる児童の育成を目指しました。

3 今後の展望

例年、多治見市では、笠原小学校の授業実践を基に、市内の外国語主任の先生方が外国語の指導の在り方などを学ぶための研修を行っています。

令和2年度から、全ての小学校で新指導要領に基づいた外国語の授業が始まります。子供たちの外国語の力をより一層高めるために、特例校の先進的な実践を市内の小学校に広めるなど、笠原小学校が多治見市における外国語教育のセンター的機能を担うことが期待されます。

